

第134回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

平成28年8月

日時: 2016年8月26日(金) 18:00-19:30 場所: 神奈川大学 1号館 301号室
◆主催: 防災塾・だるま 司会: 田中晃 記録: 紅林敏行
◆談義の会参加者: 会員19名 一般2名(含む講師) 計21名(敬称略)



田中さん(司会)

横浜都市発展記念館

本町通り・大榎橋通りに面するタイル貼りの外壁の鉄筋コンクリート造りの建物「旧横浜中央電話局」にある。
(横浜市認定歴史的建造物)

横浜市新市庁舎建設予定地

発掘調査に青木さんも参加。震災で倒壊した横浜貿易新報社新館等の建物基礎が出土。2015年12月に埋蔵文化財発掘調査見学会が開催。



青木さん(講師)



池田副塾長(挨拶)

話題: 『関東大震災と耐震建築』～赤煉瓦から鉄筋コンクリートへ～

講師: 青木 祐介氏(横浜都市発展記念館主任調査研究員、工学博士)

関東大震災後に都市の景観が変わった! 赤煉瓦からタイル貼りの街並みに。(震災後に「ビル街」が流行)

- 煉瓦造建築が受けた甚大な被害⇒耐震耐火構造である鉄筋コンクリート構造が全国的に普及
- 市内の主要な煉瓦造建築160棟のうち「被害なし(または軽微)」は35棟。
⇒横浜正金銀行本店、横浜市役所、横浜停車場、税関倉庫等は被害僅少。地震後の火災により被害。
- 1911年竣工三井物産横浜支店は日本最初の鉄筋コンクリート造り(2015年に隣の旧生糸倉庫と共に解体)。



①

- 震度6～7クラスの地震の揺れ。横浜市は倒壊による被害より火災による被害が大きい。
⇒被災状況(①講義資料の写真から)
⇒開港記念横浜会館「震害殆どナシ 地下室、塔ヲ除ク他ハ焼失」(建築雑誌454号から)



②

- 「この辺りで地中かられんがが出てくれば、震災以前のもと考えてまず間違いがない。」(2015/9/1付神奈川新聞記事「未曾有に学ぶ(語り継ぐ関東大震災)」の青木さんのコメントから)
《当時の横浜市による瓦礫処分地の公告から》
「市内の土地は一帯に低下状態なるを以て焼跡土石は可成敷地地上げ用に供せられたし」



③

- ⇒ビル JAL 3F 以内の前のマツヨシ工事で被災前の商会の煉瓦等が出土(④講義資料の写真から)
⇒地震に耐えた煉瓦造建築の横浜駅は震災復興計画の中で現在の場所に移転。出土した当時の高島町の駅の遺構(②講義資料の写真から)



④

- 煉瓦壁に鉄材を埋め込む耐震技術
《碇掛鉄構法》: 水平方向の帯鉄と垂直方向の鉄棒による補強。(⑤講義資料の写真から)
⇒『山手80番館』遺構にも鉄筋が入っている。
- タイル貼りの神奈川県庁舎、横浜中央電話局等が再建。
⇒日本大通りの陸屋根の建築が並び景観
(③講義資料の写真から)



⑤



講義の風景

- 参加していた渡辺渉氏(神奈川新聞報道部)からのコメント
「関東大震災から100年に向けて『未曾有に学ぶ』をフォローアップしていく。」

●次回(第135回)案内

- 日時: 2016年9月30日(金) 18時～19時30分 ・場所: 神奈川大学1号館301号室
- 話題: 水循環のミル・ヨリから災害を考える～地下の水の循環を可視化していくことで災害対策や環境保全に役立てる～
- 講師: 西岡 哲氏(株)地圏環境テクノロジーズ(相談役)